

三里塚を闘う労働運動こそ 日本労働運動の主流になる

日刊 動労千葉

87. 5. 20
No. 2554

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七



全国から闘う人民 9800人が結集

根は、四月一日、『分割・民営化』を強行したが、動労千葉、動労総連合、国労の仲間達は不屈に闘いぬいている。労働運動解体攻撃を粉碎し、さらに、3・29三里塚を起点に中江、北原選挙に勝利した。また、水戸の仲間達は七五％が配転させられたがスト権を確立し、高崎でも不屈に闘いぬいている。鉄道労連はいまだに、五〇％しか組織できない。三里塚を闘う労働運動こそ日本の労働運動の主流にならなければならない」と「四・一」以降も動労千葉、動労総連合の仲間達が意気軒昂と闘いぬいており、組織拡大をかちとる決意を全参加者に表明した。

敷地内を守りぬき二期阻止へ

つづいて、敷地内で闘う小川喜平さん、加藤清さん、加藤俊宣さん、島村昭治さんより決意表明が行われ、さらに婦人行動隊の郡司とめさん、青年行動隊の宮本衛さんからは「敷地内を守りぬく」という決意が明らかにされた。

5・17三里塚闘争報告 住田―松崎連合を粉碎せよ

動労千葉は、当局の妨害・弾圧体制を打ち破り、5・17三里塚集会への合流をかちとった。当局の成田駅における弾圧体制こそ、三里塚で日帝・公団が、機動隊の暴力をもって農民から土地を奪い取るうとする攻撃と全く同じだ。われわれは、今回の5・17三里塚闘争を起点にして、権力・当局・動労革マル松崎の目論見を破産に追い込み、「四・一分割・民営化」体制を粉碎するまで闘いぬかなければならない。

労働運動の 主流へ

特別報告として
動労千葉より布施書記長が発言にたち、「日帝・中曾

カンパ要請の後、関西新空港反対住民の会、北富士忍草入合組合・忍草母の会、反戦被爆者の会、沖縄民権の会、佐世保の海を守る会、部落解放同盟荒本支部、意岐部東小、闘う障害者、婦人民主クラブ全国協議会、全日農福島青年部などの闘う住民団体、支援団体より連帯の挨拶が行われた。

最後に宮本嘉さんより行動提起を受け、さらに団結ガンバロー三唱を行い、全参加者は雨をついて断固としてデモンストレーションを貫徹した。

当局の妨害を粉碎し、敷地内を戦 闘的にデモ行進する動労総連合

